

昔かたぎ地でいく

昔かたぎ、頑固一徹を地でいくような人だった。所かまわず、誰かまわず自分の信条、意見をぶつけ、小柄で温厚な顔立ちからは想像がつかない、全身反骨の塊みたいな人だった。

彼の一日は、新聞を読んで社会情勢、世情について、私などにあれこれ批判や愚痴をとばして、怒りを発散するところから始まる。

政治、経済、文化などあらゆる分野について、驚くほどに知識が豊富で、その指摘も機知に富んでいて、なるほどと思わせるものが数多くあった。話をし

豊濱光輝さんを悼む

久高政治

たら1時間でも2時間でも止まらない。

「君が止めない限り僕の口は止まらないよ」と人のせいにするところはいやらしいと思ったが、先輩に言えるわけがなく馬耳東風に徹した。

豊濱会長は、24歳という多感な青年時代に石川・宮森小学校ジェット機墜落事件に遭遇し、果ては遺体安置所の担当という酷な役割をあてがわれた。教師としての責任感と、被害者遺族の怒りとの板挟みに遭い、50年間、彼はこの事件を避けるように生きてきた。

2010年3月に発足した石川・宮森630会の会長に就任してから、それまで沖繩戦後史の中で1行でしか標記されていなかった石川・宮森小学校ジェット機墜落事件を、証言集や資料集を発行し、写真や資料の展示会、講演会を開催し、実相を明らかにしてきた。

彼の功績は、1行で語られていた歴史を、沖繩戦後史の中に重要な事件として位置づけさせたことにある。

5年間で多くの足跡を残した豊濱会長に、これからも石川・宮森小学校ジェット機墜落事件を語り継ぐことを誓い、惜別の辞とする。(NPO法人石川・宮森630会事務局長)

|| 27面参照